

## 【芸予諸島方言アクセントデータベース】凡例

本研究課題により得られたデータを「芸予諸島方言アクセントデータベース」としてまとめた。

### 調査地点・調査対象者

調査地点は、本研究課題で設定した愛媛県側の18地点、広島県側の16地点、合計34地点である。愛媛県の今治市を1番目(①今治市)とし、以下、34番目の広島県大芝島(⑳大芝島)まで、調査地点名の頭に○数字を付す。

調査対象者については、個人情報の観点からイニシャルで示す。生年・性別については、( )内に示し、生年は西暦で、性別をm(男性)・f(女性)で示す。たとえば、T・Tというイニシャルで、1945年生まれの女性であれば、T・T氏(1945f)となる。本研究課題では、調査対象者を、第1世代(1959年以前生まれ)、第2世代(1960年～1989年生まれ)、第3世代(1990年以降生まれ)の3世代にわかれていることから、世代ごとにデータを示す。同地点の同世代で複数の話者がいる場合、生年の早い順に、生年が同年の場合は、イニシャルの早い順に示す。

### データ表示

データの配列について、名詞は、拍数・類・語・読み・調査対象者の型、動詞は、拍数・段(活用の種類)・類・語・活用形・読み・調査対象者の型、形容詞は、拍数・類・語・活用形・読み・調査対象者の型の順に示す。

類については、類別語彙に基づき示すが、どの類か未確定の語をX、どの類にも入らない語をZとして示す。

活用形について、動詞は、終止形・終止連体形(「トキ」接続形)・過去形(助動詞「タ」接続形)・過去連体形(助動詞「タ」+「トキ」接続形)・テ形(助詞「テ」接続形)・否定形(助動詞「ン」(「ナイ」)接続形)・禁止形(助詞「ナ」接続形)・命令形・意志形(助動詞「ウ・ヨウ」接続形)の9種類の活用形を示す。ただし、すべての動詞でこれら9種類の活用形を調査しているわけではない。地点や調査対象者によって調査している動詞(活用形)に異なりがあるが、可能な限り多くのデータを示すということから、調査している活用形が1つでもあればデータを示す。そのため、9種類の活用形のデータがそろっている場合もあれば、終止形のみしかデータがない場合がある。また、同地点の同世代においても特定の調査対象者しかデータがない場合もある。

形容詞は、終止形・終止連体形(「モノ」接続形)・過去形(助動詞「タ」接続形)・「ナイ」接続形・「ナル」接続形の5種類の活用形を調査しているが、ここでは、終止形と過去形のデータを示す。動詞と同じように、すべての形容詞でこれら5種類の活用形を調査しているわけではない。地点や調査対象者によって調査している形容詞(活用形)に異なりがあるが、可能な限りデータを示す。

話者の型については、〈式〉を有する場合、高起系列の〈式〉をH、低起系列の〈式〉をLで示し、〈下げ核〉の位置を数字で示す(0は無核を表す)。〈式〉を有しない場合は、〈下げ核〉の位置を数字で示す。

⑥津島・⑱魚島以外の地点における拍内下降(語末・文節末)について、音声的な現象として拍内下降を有する語(活用形)であることがわかるように、Fを付す。たとえば、芸予諸島では、「押す」の命令形「オセ」の語末に拍内下降がみられる地点(調査対象者)があるが、このような場合、「2F」のように、数字の右横にFを付す。

⑱魚島の第3世代では、型の認定に問題の残る音調がみられることから、このような場合、「2※」のように、数字の右横に※を付す(型の認定の問題については、本研究課題の研究成果報告書「芸予諸島方言におけるアクセントの研究」の2. 4. 3. を参照されたい)。

話者の型が揺れている場合は、「H1, L2」「1,2」のように示す。

?は調査対象者の疑問、#は調査実施者の疑問、-は未調査を示す。

その他、たとえば、芸予諸島では、「買う」の連用形が、ウ音便形の「コータ」がよく用いられるが、このように語形が異なる場合などの注記については、それぞれの型の下に示す。